詫間中学校学校通信
瞬花紬憧 ～咲き乱れる青春の花～
浦島伝説
令和７年１月１０日
第 ３０ 号

2025 年、どんな年にしますか？

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

2025 年の干支（えと）は、蛇（み）にあたる「巳」です。脱皮を繰り返して成長していくイメージから、しなやかな再生と発展の年になるとも言われます。

3 学期がスタートしました。3 年生は本日から私立高校の入試が始まり、いよいよ進路に向けての本番を迎えています。そして、詫中生として過ごすのも残り 3 か月になりました。また、2 年生にとっては「最上級生」に、1 年生にとっては「先輩」になるための準備の学期でもありますね。

ところで皆さんは 2025 年をどんな年にしますか。年頭に目標を立てた人も多いと思います。目標を立てたら、それをきちんと言葉にしてみることは大切だなあ、と思える話を見つけました。それは、箱根駅伝に、２年連続８度目の総合優勝した青山学院大学の原監督と選手のエピソードです。その部分を抜き出して紹介します。

原監督は、指導方針としてしばしば「言葉の力」を挙げています。

「ワクワク大作戦（2015 年大会）」「ハッピー大作戦（2016 年大会）」など自らキャッチフレーズをつける力に長けているだけでなく、選手たちの言葉の力を鍛えることも怠りません。「監督から『ああしろ、こうしろ』と言われてやっても意味がない。自分たちで自発的に目標を定めて『やる！』と言わないと、モチベーションにつながらない」というのがその狙いなわけですが、それを象徴するようなエピソードがあります。

今回、ラスト 10 区を走った渡辺利典選手（4 年）は、大会前の記者会見で「自分のテーマは『復讐』」と物騒な言葉を使って気持ちを表現しました。というのも、箱根の前の大きな大会（全日本大学駅伝。青学の結果は 2 位）で起用してもらえなかった悔しさを、今回の箱根駅伝にぶつけたい彼は、「快走して、やっぱりあのとき使っておけばよかった、と監督を悔しがらせたい」と決意を語ったのです。

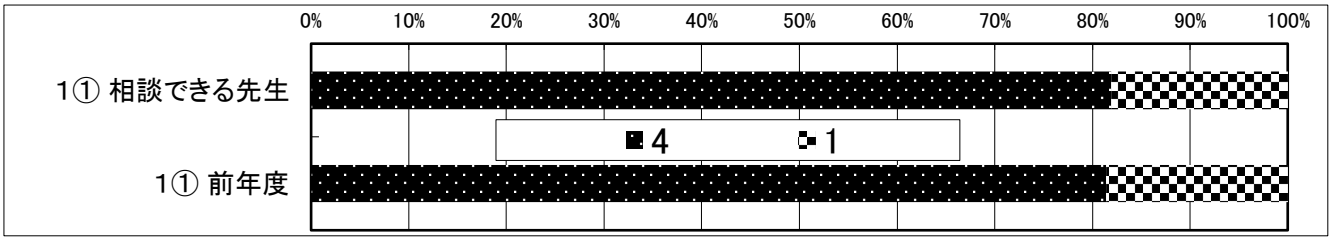
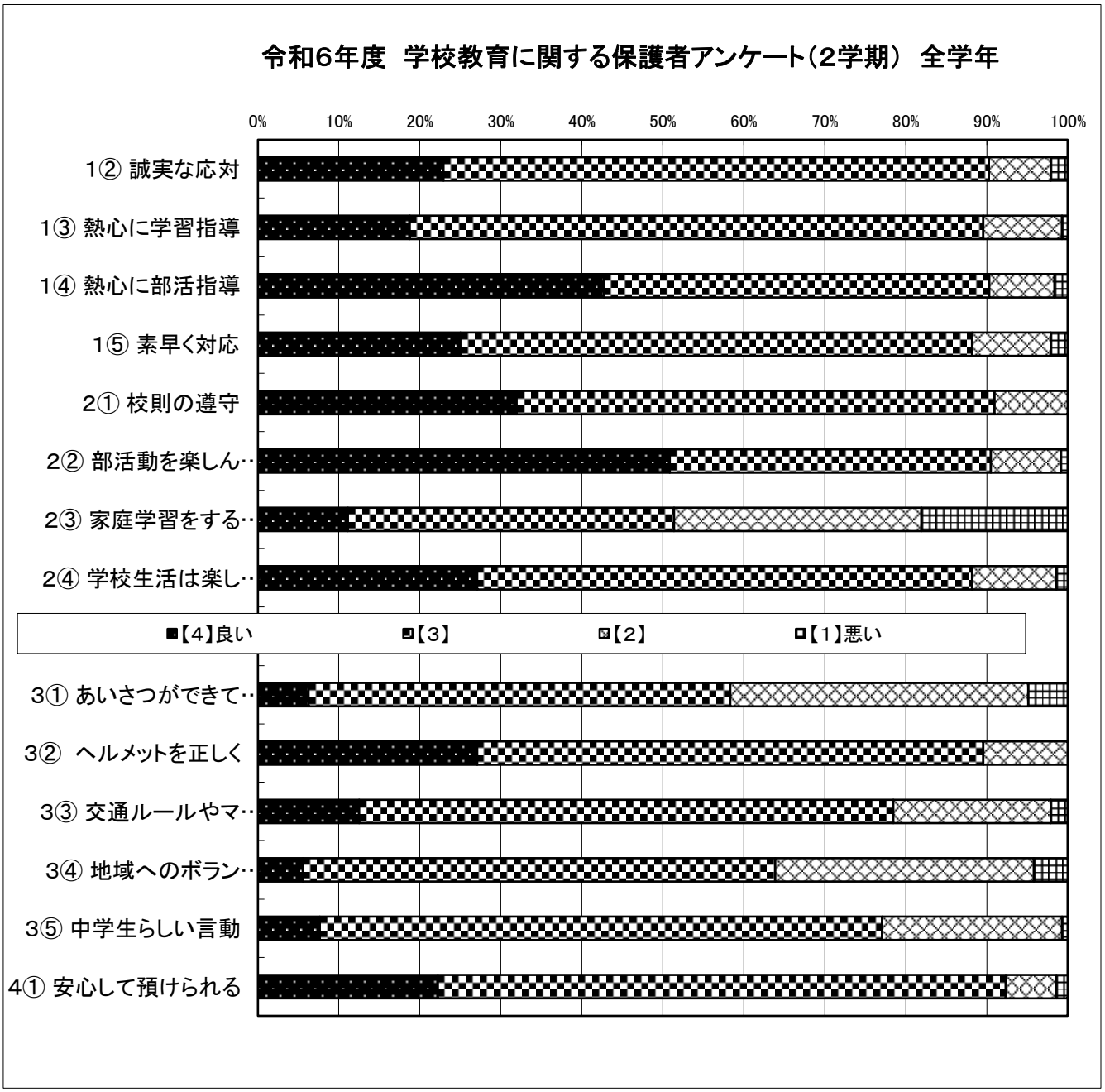
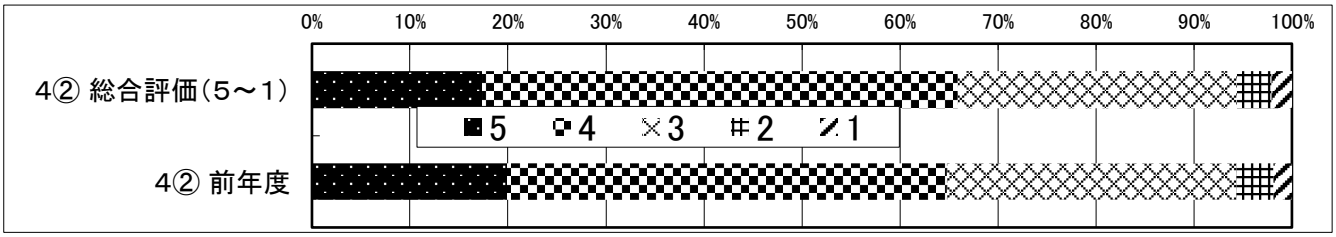
（2016.1.11「東洋経済 ONLINE」より）

話の中の渡辺選手は、悔しさを「復讐」という言葉に置き換えて、自分の目標として自分自身を励ましながら頑張った結果、素晴らしい結果に結びつきました。

原監督は、毎年箱根駅伝の大会前に目標を作戦名として発表しています。ちなみに、今年の作戦名は「あいたいね大作戦」にするとし、「大手町のフィニッシュでチーム全体で笑顔で会いたいし、ファンの皆様と笑顔で喜び合いたい。優勝するといろいろな出会いがあり、スポーツ界や経済界など、思ってもみなかった方々と会える」と説明しました。先週の箱根駅伝では、10 時間 41 分 19 秒の大会新記録で総合優勝を果たしました。自分から発した「言葉」というのは、すごいパワーを持っているのですね。

皆さんも、2025 年の目標を「言葉」でしっかりと表してみませんか。その「言葉」が自分自身を励ます力にきっとなりますよ。

一皮むける成長を

今後の学校教育改善の参考にいたします。

ご協力ありがとうございました。